

インターバンクの声（2016年11月4日）

先週金曜日のニューヨークの昼過ぎ、それまで105円台中盤付近で取引されていたドル円相場が突如ドル売りに動き始め、1時間経つか経たないうちに104円台中盤まで値を下げてしまった。米連邦捜査局(FBI)が米大統領選クリントン候補の国務長官時代の私用メール問題についての再捜査開始を表明したためだった。米司法省、民主党、そしてオバマ大統領までもが、この時期にFBIが再捜査を表明したことに批判的だが、トランプ候補がクリントン候補を追い上げ、一部の世論調査ではリードさえ奪っている状況をいまさら変えることは出来ない。週明けこそいったん105円台に戻す場面もあったが、大統領選の行方に対する不透明感や警戒感は日毎に増すばかりで、昨日は遂に102円台中盤まで下げてしまった。流れが一方向に傾き出す時には良くあることだが、昨日は米新規失業保険申請件数、ISM非製造業景況指数といった経済指標まで悪化、前日に米原油在庫の大幅な増加が伝わっていたため原油価格も45ドルを割るなど、ドルを下支えするどころか、さらに下落を誘う材料も重なった。短期間で105円台から3円も下げたので勢いはなくなると思われるが、雇用統計の結果が良くなければ101円台突入もあるのかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。